産業マネジメント専攻　平成 19 年度　授業アンケート結果

H19 年度　前学期

1.　基礎データ　（表 1 参照）

【授業の知的価値について】

本専攻が提供する授業の知的価値について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生はそれぞれの項目で 80%程度を示しており、「知的好奇心をかき立てるものであった（82%）」「期待した知識が授業で得られた（77%）」「ビジネスの実践に役立つと思われる知識が得られた（77%）」となった。個別の科目をみても、大きな問題を有する授業はない。

【担当教員について】

本専攻の担当教員について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、それぞれの項目で 80%前後から 90%近くに上っており、「熱意（90%）」「学習の目標の明示（84%）」「説明の明快性（87%）」「質問への的確な回答（78%）」「教員知識（93%）」となった。個別の科目をみても、大きな問題を有する授業はない。

【講義技術について】

本専攻の担当教員の講義技術について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、それぞれの項目で 80%以上を示し、「授業準備の周到さ（87%）」「教科書、参考書、配布資料などの有用性（85%）」「板書、OHP、スライド、ビデオなどの使い方（81%）」について高い満足度を示していることがわかる。一方、学生が授業中にディスカッションに参加することを奨励されたかどうかについては 58%がそうだと答えている。これは、授業内容によって、ディスカッション型の科目ではないものもあり、必ずしも高い数字が良いとは限らない。81%の学生が「授業は全体としてよくまとまっていた」として、総合的に高い満足度を示している。個別の科目を見ても、大きな問題を有する授業はない。

【全体的評価・満足度】

本専攻の教育に関する総合的満足度について高い満足度を示した学生は、それぞれの項目で 90%近くに達し、「全体としてこの授業は極めて有益であった（90%）」「私はこの授業を他の学生にも勧めたい（88%）」総括的満足度が高いレベルにあることがわかる。また、学生の学習意欲については、「この授業に意欲的に取組んだ」とするもの（5 及び 4 評価の合計）が 88%に達している。個別の科目を見ても、大きな問題を有する授業はな

い。

【科目の特徴】

科目の難しさについては「ちょうど良い（3 ランク）」と「難しい（4 ランク）」程度が適当と考えられるが、全体として 3〜4 ランクをあげた学生の合計は 86%であり、全体として適切な水準であると考えられる。但し、科目の一部に「難しい」と「非常に困難」と答えた学生が 80%を超える授業が存在する。勉学の負荷については「ちょうどよい（3 ランク）」と「やや重い（4 ランク）」程度が適当と考えられるが、全体として 3〜4 ランクをあげた学生の合計は 83%であり、適切な水準と考えられる。授業のペースについては、「ちょうど良い（3 ランク）」が妥当なレベルであり 67%であるが、「やや早い」は 23%で、適度な緊張感が保たれているものと考えられる。教員の親近性については、「とても親近感がもてる（5 ランク）及び「親近感がもてる（4 ランク）」合計で 76%であり、大半の教員が適切な教育上の距離を維持しているものと考えられる。

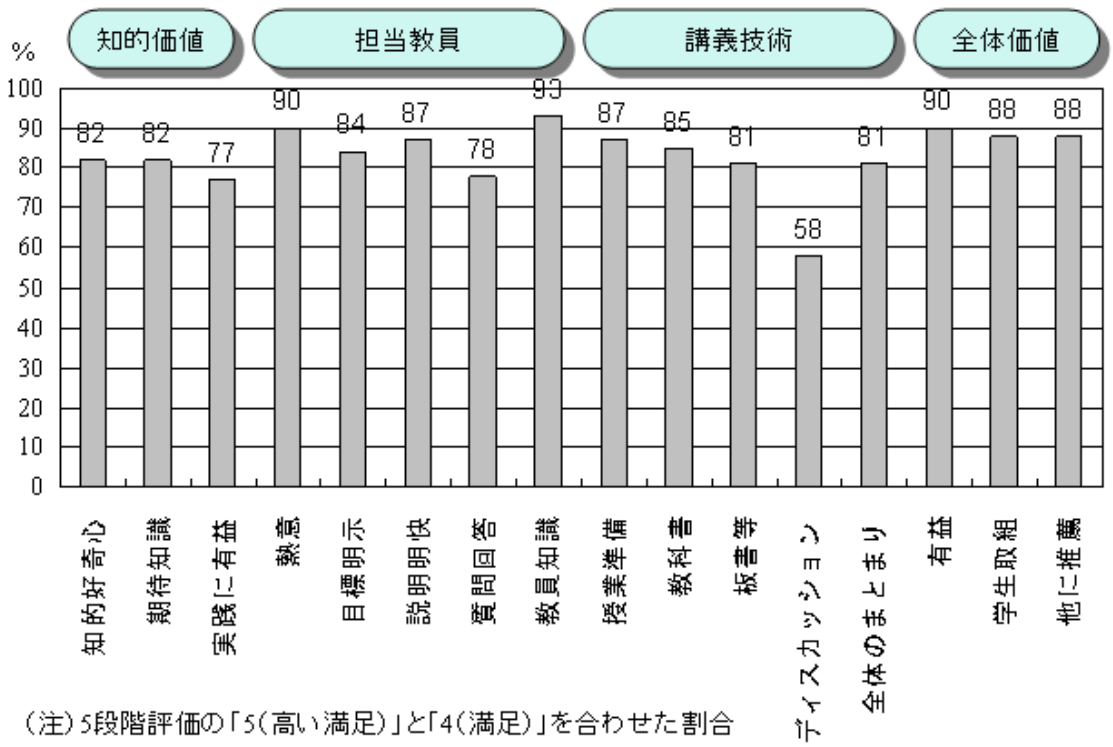
【授業内容の重複】

本専攻の授業は数多く開講されているため、科目内容の重複を調査しているが、問題は見られない。隣接科目における内容の重複はあるものの、異なる角度や異なるレベルでの教育であるため、学生の反応も「理解が深まる」「復習が出来た」「相互補完できた」と肯定的である。

【自由記述欄】

本専攻の教育として学生が良いと感じている点で最も多い意見は「実践的である」「教員の実務経験に基づくこと」である。更に、「説明の仕方が具体的」「具体例が豊富で興味深い」などが続く。これらは、他にも多くの学生があげる「ケースが有益」「専門性が高い」などの点とともに、本専攻の実践的教育が高く評価されたものと考えられる。また、「充実した価値ある講義」であることをあげた学生も多い。一方、学生が不満に感じる点でもっとも多くの学生があげた点が「講義時間の管理」である。この点は、教員が熱心な余り、つい時間超過してしまうということが多い様であるが、個別の授業についての詳細な点検が必要であろう。また、「授業の時間帯が早い」という不満もいくつか見られた。本専攻で最も早い時間に行われる授業は福岡中心部のサテライト・レクチャー・ルームで 18:20 からであるが、これさえも、働き盛りの社会人にとって、夕刻の授業参加の為に早めに退社せざるを得ないため、あと 20〜30 分でも遅く始まると良いと考える学生がいるということである。但し、遅く始めると終わりが遅くなるため、今度は遠隔地からの通学者から不満が出ることになるので、バランス面から現在の時間が設定されている。

表１　授業アンケート（前期）の結果概要グラフ



2.　集計結果の概観

【評価の総合的結果】

データ上も自由記述コメント上も、本専攻の前期授業は総合的に極めて高い満足度を得ている。学生は、それぞれの授業について肯定的・否定的両面から様々なコメントを寄せているので、教員は各コメントを読み、授業改善に活かしていくことが重要である。

【組織的に緊急に改善が必要な点】

本アンケート結果をみて、本専攻として、教育上組織的に緊急に改善が必要な点は特に見られないが、「講義の時間管理」について 13 件の不満が寄せられており（上記詳述）、この点は該当する授業の教員に周知徹底する必要がある。

【アンケート回収率】

アンケートの回収率を見ると、全体で 64.5%であり、改善の余地がある。但し、更に詳細をみると、本専攻専任教員のアンケート回収率は 75%程度以上であるのに対し、非常勤講師（学内外）の回収率は 20%に満たない科目も散見され、殆どが 50%以下である。今後、

全体の回収率を上げることに加え、非常勤講師科目の回収率について工夫を行う必要があると考えられる。

H19 年度　後期

1.　基礎データ　（表 2 参照）

【授業の知的価値について】

本専攻が提供する授業の知的価値について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生はそれぞれに 90%前後を示しており、「知的好奇心をかき立てるものであった（91%）」「期待した知識が授業で得られた（89%）」「ビジネスの実践に役立つと思われる知識が得られた（87%）」となった。個別の科目をみても、大きな問題を有する授業はない。

【担当教員について】

本専攻の担当教員について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、それぞれの項目で 80%台後半から 100%近くに上っており、「熱意（97%）」「学習の目標の明示（92%）」「説明の明快性（86%）」「質問への的確な回答（87%）」「教員知識（98%）」となった。個別の科目をみても、大きな問題を有する授業はない。

【講義技術について】

本専攻の担当教員の講義技術について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、それぞれの項目で 80%以上を示し、「授業準備の周到さ（92%）」「教科書、参考書、配布資料などの有用性（91%）」「板書、OHP、スライド、ビデオなどの使い方（82%）」について高い満足度を示していることがわかる。学生が授業中にディスカッションに参加することを奨励されたかどうかについては 84%がそうだと答えている。特に一年生は、前期に比して後期は応用科目が始まるため、ビジネスリーダー養成のための「自分で考え」「論理的に発言し」「相互にディスカッションする」という訓練が本格的に始まっていることが伺える。90%の学生が「授業は全体としてよくまとまっていた」として、総合的に高い満足度を示している。個別の科目を見ても、大きな問題を有する授業はない。

【全体的評価・満足度】

本専攻の教育に関する総合的満足度について高い満足度を示した学生は、それぞれの項目で 90%近くに達し、「全体としてこの授業は極めて有益であった（90%）」「私はこの授業を他の学生にも勧めたい（88%）」総括的満足度が高いレベルにあることがわかる。

また、学生の学習意欲については、「この授業に意欲的に取組んだ」とするもの（5 及び 4 評価の合計）が 88%に達している。個別の科目を見ても、大きな問題を有する授業はない。

【科目の特徴】

科目の難しさについては「ちょうど良い（3 ランク）」と「難しい（4 ランク）」程度が適当と考えられるが、全体として 3～4 ランクをあげた学生の合計は 84%であり、全体として適切な水準であると考えられる。勉学の負荷については「ちょうどよい（3 ランク）」と「やや重い（4 ランク）」程度が適当と考えられるが、全体として 3～4 ランクをあげた学生の合計は 84%であり、適切な水準と考えられる。授業のペースについては、「ちょうど良い（3 ランク）」が妥当なレベルであり 81%であるが、「やや早い」は 14%で、適度な緊張感が保たれているものと考えられる。教員の親近性については、「とても親近感がもてる（5 ランク）及び「親近感がもてる（4 ランク）」合計で 80%であり、大半の教員が適切な教育上の距離を維持しているものと考えられる。

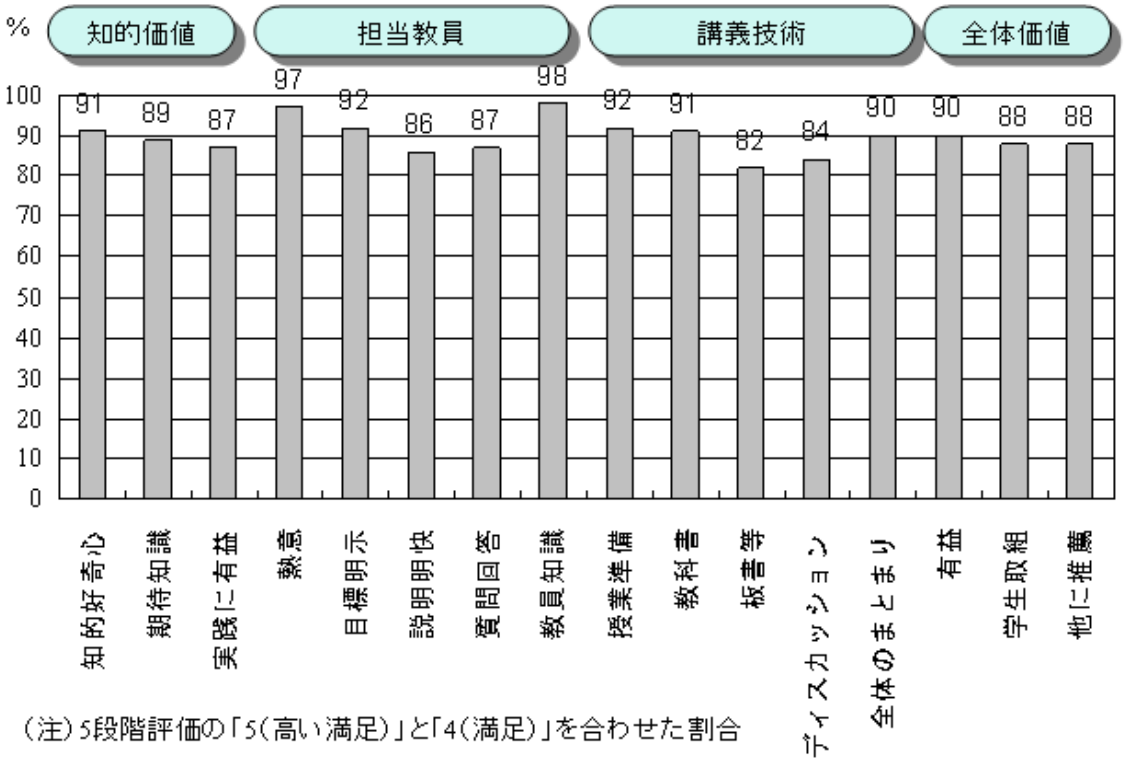
【授業内容の重複】

本専攻の授業は数多く開講されているため、科目内容の重複を調査しているが、問題は見られない。隣接科目における内容の重複はあるものの、異なる角度や異なるレベルでの教育であるため、学生の反応も「理解が深まる」「復習が出来た」「相互補完できた」と肯定的である。

【自由記述欄】

本専攻の今期教育として学生が良いと感じた点で最も多い意見は「教員の専門性」「わかりやすさ」「ディスカッションの有益性」である。更に、「説明の仕方が具体的」「具体例が豊富で興味深い」などである。他にも多くの学生があげる「ケースが有益」「実践的内容」などとともに高く評価されている。一方、学生が不満に感じる点で、複数の学生から同じ指摘事項が寄せられた点はなく、個別授業において工夫すべき点が殆どであると考えられる。尚、「ケースが古い」「授業準備不足」「レポートの手書き強要」などはその妥当性を早急に検討すべきであろう。

表 2　授業アンケート（後期）の結果概要グラフ



2.　集計結果の概観

【評価の総合的結果】

データ上も定性コメント上も、本専攻の前期授業は総合的に極めて高い満足度を得ている。学生は、それぞれの授業について肯定的・否定的両面から様々なコメントを寄せているので、教員は各コメントを読み、授業改善に活かしていくことが重要である。

【組織的に緊急に改善が必要な点】

本アンケート結果をみて、本専攻として、教育上組織的に緊急に改善が必要な点は特に見られない。

【アンケート回収率】

アンケートの回収率を見ると、全体で 60.1%**であり、相当に低く、改善の余地がある。一部には** 20%**台の回収率の科目もあり、回収率の低い科目の教員は回収率を高める工夫を行う必要がある。**

以上